

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
第 3 期中期計画フォローアップ (令和 4 年度実績)  
【科学技術イノベーション政策研究センター (SciREX センター)】

2023.4.28

1. 令和 4 年度における活動の概要

(総括)

令和 4 年度において、①人材育成に関し、コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、行政官研修を実施した。②研究・基盤に関し、共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、共進化実現ステージのプロジェクト 11 件の推進支援等を行った。③共進化に関しては、行政官研修の実施、共進化実現プログラムの運営等に加え、文部科学省内研修と連携したブラウンバッグセミナーの開催、共進化方法論に関する調査研究を実施した。また、④ネットワーキングに関しては、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業運営委員会 (以下、「運営委員会」という。) を文部科学省とともに計 3 回開催、各拠点の協力を得たサマーキャンプの実施、SciREX セミナーの開催、オープンフォーラムの開催、政策リエゾンの活用、SciREX 事業の活動や成果に関する広報を行った。

①人材育成

(活動の概要)

- ・コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、その活動を支援した。主な活動は以下のとおり。①編集委員会 (12 月 9 日) を開催した。②新規コンテンツ 4 件の原稿執筆作業を進め、1 件をウェブサイト上で公開した。③留学生が活用できるよう、英語翻訳化したコンテンツをウェブサイト上で公開した。各拠点教育プログラムの授業での活用の支援と教員、学生へのアンケートを実施し、令和 5 年度で予定している改訂方針検討のための情報収集を行った。
- ・行政官研修 (座学 1 月 10 日~12 日、演習 1 月 26 日、2 月 10 日、2 月 24 日) を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施し、行政官 8 名が修了した。
- ・コアコンテンツの日本語原稿を英訳して公開する英語版ページを 7 月に公開した。

(KPI の達成状況)

- ・編集委員会 1 回 (12 月 9 日)、メールベースでの意見照会等 [計画: コアカリキュラム編集委員会及び同 WG 開催回数: 3 回程度]
- ・行政官研修の修了者数: 8 名 [計画: 行政官研修の履修者数: 15 名程度]

## ②研究・基盤

(活動の概要)

- ・共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、共進化実現ステージのプロジェクト 11 件の推進支援を行った。主な活動は、①第 3 回アドバイザー委員と PJ との意見交換会の運営 (4 月～5 月、計 11 回) 及び PJ へのフィードバック支援、③第 4 回アドバイザー委員と PJ との意見交換会の運営 (9 月～10 月、計 11 回) 及び PJ へのフィードバック支援、④成果報告会の企画準備、⑤報告書等の各種様式の作成支援である。
- ・センターの研究者を代表とする共進化実現プロジェクト (池内健太センター特任フェローを代表者とする共進化実現ステージの「科学技術・イノベーション政策の経済社会効果分析の政策形成プロセスへの実装」プロジェクト)を実施した。また、センター専門職等がこれらのプロジェクト及び GiST 教員を研究代表者とする共進化実現プロジェクトの実施に参画した。

(KPI の達成状況)

- ・共進化実現プログラムにおいて、実現ステージ 11 件 [計画：共進化実現プロジェクト件数：(準備ステージ除く) 10 件程度]

## ③共進化

(活動の概要)

((1) の行政官研修の記載参照)

((2) の共進化実現プログラムの運営の記載参照)

- ・行政官と研究者を中心とする議論の場として、文部科学省内研修と連携し SciREX 事業及び関係者を文部科学省内に紹介・周知するブラウンバッグセミナーをランチタイムに 5 回 (4 月 25 日、7 月 5 日、9 月 22 日、12 月 12 日、3 月 2 日) 開催し、行政官の政策ニーズの把握などを行った。
- ・共進化方法論に関する調査研究を委託調査も活用しつつ実施し、その進捗状況等を運営委員会 (12 月 9 日、2 月 2 日) 等で説明した。具体的には、国内外の EBPM 推進事例のうち、特に政策形成から政策実験・実証に取り組む事例の調査を行った。また、令和 5 年度における SciREX 研究プロジェクトの立案への貢献を念頭におきつつ、事業終了後を見据えた日本版 Policy Lab の試行の一環として、英国の Area of Research Interest (ARI) のリスト化を参照しながら SciREX としての ARI のリスト化を試行し、行政官と研究者が政策研究課題を共創的に設定していく方法論の開発を行った。さらに、共進化実現プログラム (第 1 フェーズ) の追跡調査の実施・分析等を行い、共進化実現プログラム (第三フェーズ) に向けたガイダンスを整備した。
- ・共進化方法論に関する調査研究について、10 月に開催された研究・イノベーション学会の年次学術大会で発表した。

- ・12月9日開催の運営委員会において、共進化方法論に関する調査研究の成果等も踏まえて、事業終了後に STI 政策研究・政策形成を進展させるためにどのような機能の維持・発展が必要かについて問題提起し議論を行った。2月2日の運営委員会においては次年度に実施する活動として、政策課題対応型研究プロジェクトの試行的実施、今後の EBPM を実現する政策研究の体制検討等の具体的な項目を掲げて議論を行い、次年度の活動についての示唆を得た。

(KPI の達成状況)

(再掲分は (1) (2) の記載参照)

- ・共進化方法論の調査の進捗状況を取りまとめ、運営委員会 (12月9日、2月2日) 等で報告した。[計画：共進化方法論の報告書のとりまとめ]

#### ④ ネットワーキング

(活動の概要)

- ・文部科学省及び SciREX 事業を実施する各拠点・関係機関の実務責任者からなり各拠点・関係機関の取組や役割分担の検討・調整、事業全体についての情報共有等を行う運営委員会を文部科学省とともに計3回 (5月27日、12月9日、2月2日) 開催した。
- ・各拠点の協力を得て、新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ政策研究大学院大学において令和元年度以来の対面形式により、9月2日 (金) ~9月4日 (日) に各拠点の学生及び拠点の教員等が参加するサマーキャンプを実施した。今回からサマーキャンプ修了生の有志からなる実行委員会を設置、実行委員が企画し運営の一部を担う形式で実施した。
- ・SciREX 事業関連のプロジェクトの成果や進捗報告を題材に、政策担当者、研究者及び関係者が率直な議論を行える場である SciREX セミナーをウェビナー形式で4回 (7月11日、11月4日、1月31日、2月22日) 開催した。
- ・共進化方法論に関する調査研究における ARI のリスト化の試行において、CRDS の政策課題の俯瞰調査と連携し、結果の活用や今後の発展可能性について意見交換を行った。
- ・RISTEX プログラムサロンに参加し、プロジェクト実施者やアドバイザーとの交流や状況把握と行うとともに、RISTEX プロジェクトを SciREX セミナーで取り上げ広報に協力した。
- ・政策リエゾン制度を維持し、サマーキャンプや行政官研修の講師、コアコンテンツのレビュー、共進化実現プロジェクトの推進、セミナーの企画等でリエゾンを活用した。
- ・SciREX 事業の活動や成果に関する情報をウェブサイト、広報媒体(2号発行)を通じて発信した。

(KPI の達成状況)

- ・運営委員会の開催回数：3回（5月27日、12月9日、2月2日）[計画：運営委員会の開催回数：3回]
- ・サマーキャンプへの参加学生数：42名（加えて実行委員5名参加）[計画：50名以上]
- ・SciREX セミナーの開催回数：4回 [計画：4回程度]
- ・政策リエゾンの委嘱総数：33名（年度末の委嘱数）[計画：30名程度]

⑤その他特記事項

特になし。

## 2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

事業終了後を見据えた計画に対する対応として、以下の活動を行った。

- ①共進化方法論の調査の進捗状況をとりとまとめ、運営委員会等で報告した。
- ②12月12日開催の運営委員会において、共進化方法論に関する調査研究の成果等も踏まえて、事業終了後にSTI政策研究・政策形成を進展させるためにどのような機能の維持・発展が必要かについて問題提起し議論を行った。2月2日の運営委員会においては次年度に実施する活動として、政策課題対応型研究プロジェクトの施行的実施、今後のEBPMを実現する政策研究の体制検討等の具体的な項目を掲げて議論を行い、次年度の活動についての示唆を得た。*(作成上の注：計画S-4-4 関連。③共進化の項記載の再掲)*
- ③成果のアーカイブ化の円滑な実施等を念頭に、SciREXポータルサイトやコアコンテンツサイトについて、より管理運営が容易なサーバへ移行した。SciREXポータルサイトではSciREXセミナーの開催実績を一覧できるページを作成・公開するなど、アーカイブ化を継続的に実施している。*(作成上の注：計画S-4-4 関連。)*

### 3. 中期計画の見直しのポイント

令和5年4月1日にセンター長が交替したため、以下のとおり中期計画を変更。

(変更前)

責任者： 角南 篤 センター長／客員教授

(変更後)

責任者： 角南 篤 センター長／客員教授 (令和3年4月1日～令和5年3月31日)

黒澤 昌子 センター長／教授 (令和5年4月1日～)